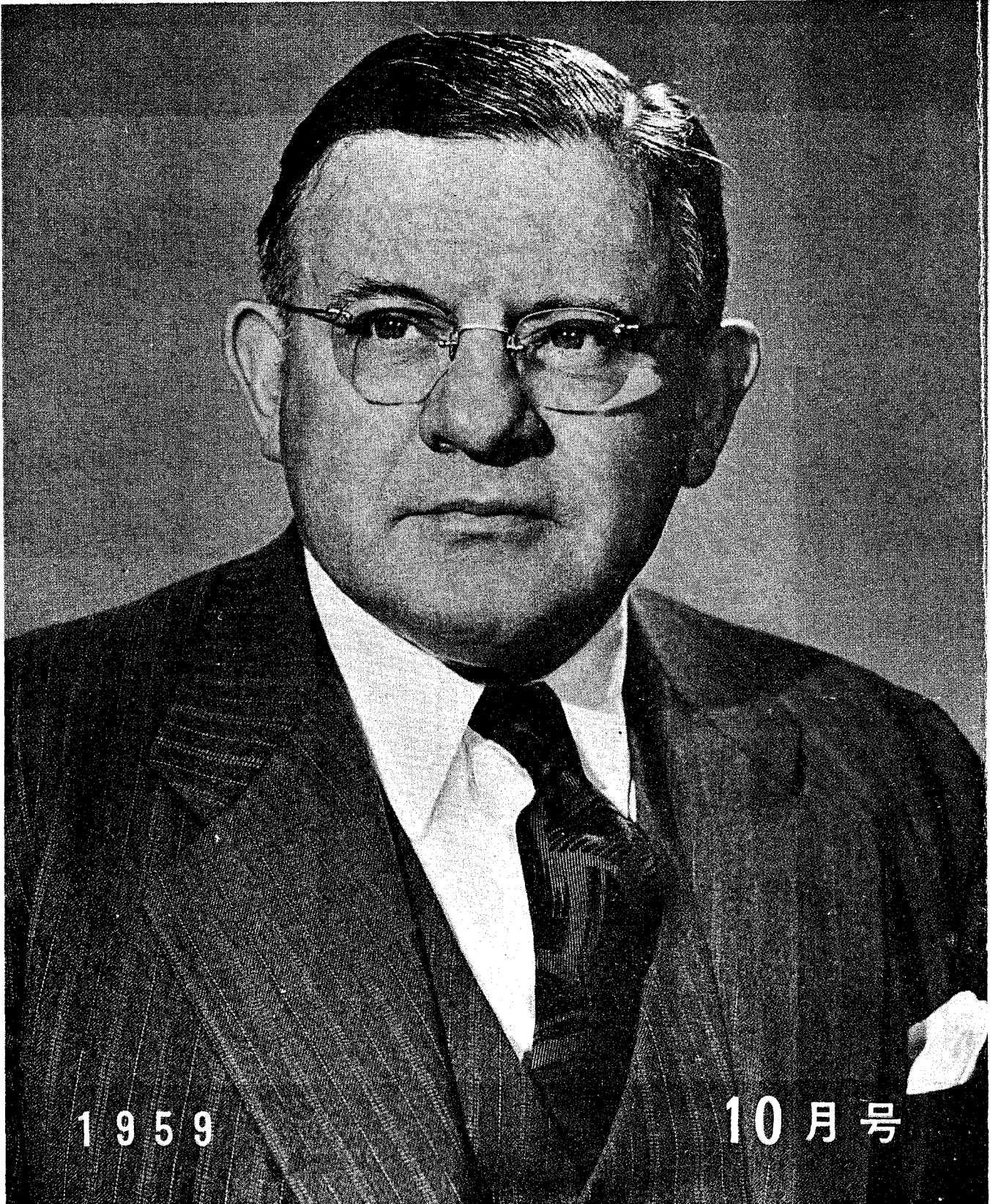


道の徒の聖

第三卷第十号一九五九年十月一日発行

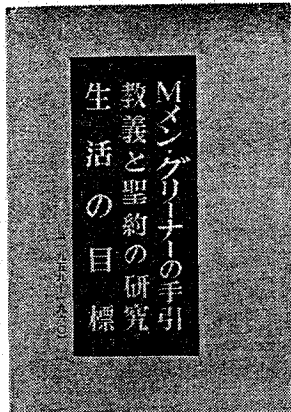


1959

10月号

末日聖徒イエス・キリスト教会

MIA MANUALS



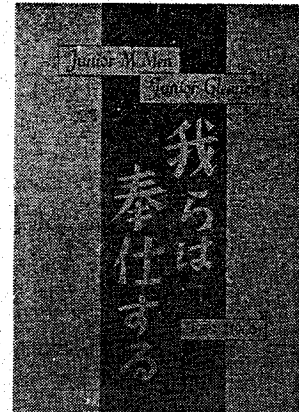
人生には数々の目標があるが、すべての目標を総括する唯一の目標こそ「永遠の生命」である事が強調されている。

一〇〇円



MIA役員たちの必読の書、一年間の計画、特別なプログラムが掲載されている。

一〇〇円



自らを忘れて「神」と「同胞」に仕えることの重要性を説いた書、MIAの年少者用テキストではあるが年長者にも内容は極めて興味のあるもの。

一〇〇円

株式会社 丸ビルタイプショップ

千代田区丸の内丸ビル2階 電話 (20) 0979・3698・5959

ジーマッグ タイプライター } 日本総発売元
アンタレス ポータブルタイプライター }
オドナー 計算機 }

其の他各種英・和文タイプライター・手動・電動計算機販売・修理



ハワイ神殿庭園（デルモント・ロー長老撮影）

聖徒の道

目

次

一九五九年十月号

【予言者のことば】

ロンドン神殿の祈り……………

大管長 デビッド・O・マッケイ……………2

【伝道部長メッセージ】

「産児制限」に関する警告……………ポール・C・アンドラス……………7

【新エルサレム（モルモンの教義）

……………佐藤竜猪……………10

【極東に於けるモルモン

私の改宗……………柳田聰子……………13

今月の出来事

モルモン経日本語訳出版五十週年（十月十日）……………18

ロレンゾ・スノウ大管長の死……………19

福音を恥としない……………田川幸子……………22

ヘンリー・D・モイル……………

——第二副管長に関する印象——……………15

末日聖徒の正しい結婚……………ブリガム・ヤング……………20

モルモン経物語（二四）……………

時間の全体……………リチャード・L・エヴァンス……………21

系……………図……………23

伝道本部だより……………29

「読者交歓室」

ソルトレーク市……………

日本人支部の活動……………田中照雄……………30

写真の説明……………（九月号一頁の福祉農場）……………30



予言者のことば

ロンドン神殿献堂の祈り

大管長 デビッド・O・マッケイ

万物を創りたまひ、汝と人類との間の一層緊密なる関係を常に助長するに役立つ無限にして絶えず進歩する諸々の計画を立てたまひしわれらの天父なる神よ。汝の子らなるわれらは今日感謝と讃美のうちに御前に集いたてまつる。汝はかつて、汝の御業と汝の光栄は「人に不死不滅と永遠の生命をもたらすなり」（モーセの書一〇三十九）と宣えり。されば人類は、この完成を為し遂げんがために汝と協力をする時に人生最高の活動に従事するなり。えい智ある人類の創造なくしては、不毛の岩石と塩分を含む海とをもてる地球と生命なき遊星系とは無意義なるものならむ。人類の創造とその永遠なるさだめの中にのみ「世の人はいかなるものなればこれをみこころに止めたもうや。人の子はいかなるものなればこれをかえりみたもうや。ただすこしく人を神より卑くつくりて榮と尊さとをこうぶらせ云々」（詩篇八〇四―五）という問に対する答あり。明らかに汝の光栄は生命なき構成物のうちにあらずして「人の不死不滅と永遠の生命」のうちにあり。

数々の神殿はこの聖なる目的を完成せんがため人類が汝と協力をする一つ的手段に過ぎず。今この第十四番目の神殿の献堂式を挙ぐるに際し、われわれが正にこの偉大なる時代に生くることの圧倒的な感謝を言い表わし得んことを。今朝われらはこの特別な特権に対しかしこみて汝にわれらの心をうち明けたてまつる。今は正に史上空前の驚嘆すべき

時なり。汝の有ちたもう神秘なる力を人間が自由に使い得る時代は今をおきて他になし、汝の有ちたもう数々の目的を人間が最もよく理解せるは正にこの時代なり。主よ、誠実に生くるよう助けを与えたまえ。

自由意志

われらは、自由意志を与えられたることを生命を与えられたることに次ぎて感謝したてまつる。汝が人類を創りたまひし時、汝は人のうちに汝の有ちたもう全能の一部を置きて、人は自ら選びとるべしと命じたまえり。自由と良心とはかくて人性の中の聖なる部分となりぬ。考うるのみならずまた口に出して言い且つ行う自由は神の賜える特権なり。

汝はその僕なるブリガム・ヤングに靈感を与えて「あらゆる人の独立は彼にとりて神聖なるものなり。すなわち、そは天に在りて支配したもうかの神の一部なり。この地球上にありて神のかたちに象りてつくられ、真直ぐに立ちて神の如くに組織され、而も良き忠告と良き模範によるのほかは他人の権利を侵害せざるかぎり自由意志の行使を奪わるる者はあらざるなり」と言わせたまえり。個人の自由は人間の尊さと人間の幸福にとりて最も肝要なるものなり。長き年月にわたり、人間は汝の義しき計画を受入るも或いは拒むも自由なりき。歴史は、肉の誘惑に屈したる者が如何に多きか、また幸福と永遠の生命に至る光と真理の道に従いたる者が比較的如何に少きかを記録す。

されど汝の慈悲、汝の智慧、汝の愛は無限なり。而して汝は汝の誤てる子らが福音の言葉を心に留めて汝の許に来るよう、選ばれて權威ある者より任命を受けたる僕たちを通して今とりなしたもう如

く過去の神権時代にもとりなしたまえり。神聖なる神殿は、墓の彼方に在る汝の子らにさえ汝の愛ある慈悲を及ぼす一つの手だてなり。中世の時代になりて、教会がキリストの教えより離れしとき、汝はこの大英帝国に於いて誠実なる正しき人々に靈感を与え腐敗せる慣習に反対する声を挙げさせたまえり。ドイツに於けるルーテルとメランヒトンおよびスウィスに於けるツィングリの挙げたる非難の声に混りて、ジョージ・ウイシャート後にスコットランドのジョン・ノックスらの声も聞えたり。われらは、焼き焦がす焰がジョージ・ウイシャートの口を沈黙せしめ彼の体を灰にする以前に、汝が彼に「この王国は、使徒の時代このかた如何なる王国も常にありたる如く明らかにキリストの福音の光によりて照らさるべし。神の宮居はその中に建てらる。まことにそは頂上の石を欠くことなかるべし」ということを一目見るを許したまえることを感謝したてまつる。大管長ウィルフォード・ウッドラフおよび大管長ジョセフ・エフ・スミスおよびその他更に近き頃の使徒たちに与えたまえる靈感はこれより一層明瞭にして、彼らは予言して「数々の神殿は……地球上の各地に建てらるべし」と言い、また「数々の神殿はヨセフの地なる南北アメリカおよびヨーロッパ其他の地に姿を現わすべし。而して、肉体に在りて福音を受けしことなきセム、ハム、ヤペテの子孫はことごとく、救い主が『すべて終れり』』と云いて御父に王国を献じたまい得る前に神殿の中にて諸々の儀式を受くるに違ひなし」と言えり。

われらは権能を受けたる僕たちが千八百三十七年と千八百四十年大英帝国に遣わされ、大英諸島の民に向い、神が再び天より語りたまひイエス・キリストの福音を純粹にして完全なるままに再び確立

したまいしことを告げ知らせたること、および数千人の人々がその言葉を受け入れその結果わが教会の本拠へ移住したることを感謝したてまつる。

われらは、汝すなわち偉大なるエローヒムと汝の最も愛したもう御子エホバとが少年ジョセフ・スミスの熱烈なる祈りに答えたまい、その結果諸天使が導きと恵みを施すことによりて、「時の絶頂」に於ける救い主と使徒の時代に樹立されたるイエス・キリストの教会と同様に使徒、予言者、監督、教師、祝福師等を有する完全なるイエス・キリストの教会を彼に組織することを得させ且つこれを承認したまいしことを感謝したてまつる。

汝の教会は神の権能によりて樹立されざるべからずという確固たる真理に一致して、汝はまことに数々の天使を遣わし予言者ジョセフ・スミスその他の者にアロン神権とメルケゼデク神権とを授けたまい、またその後「最も老いたる者」アダムよりアブラハムとモーセおよび「父の心にその子供を思わせ、子供の心にその父を思わし」むる（マラキ書四〇六）権能を有するマラキとエライジャとを通じて最近の時代に至るまでの汝の予言者が常に保ちし神権の鍵をことごとく授けたまえり。

かくの如く終始一貫して権能が完全に回復されたることに對し、われらはこの際感謝の念を言い表わし且つ聖なる御名を讃めたてまつる。

われらは、予言者ジョセフ・スミスより歳月を閲みして現在の教会幹部、すなわち大管長会、十二使徒評議員会、十二使徒評議員会補助、教会の大祝福師、七十人最高評議員会、管理監督会、に至るまで汝の教会に属する数々の指導者を賜えることに對して感謝した

てまつる。

謙遜と深き感謝の念をもて、われらは汝が近くにましますことと汝の聖なる導きと靈感とのあることを認む。されば、われらが汝に對して靈の応答をなすに當りてなお更敏感になるよう助けを与えたまわんことを祈りたてまつる。全世界に於ける各ステークホルダー、各高等評議会会員、各伝道部長会会員、各ワード部監督会会員、各支部長会会員、各定員会々長会会員、各管理会々長会会員、および各補助組織の会々長会員を祝福したまわんことを、また彼らが信任を受けたる指導者なることおよび彼らがその生命を貴び重んずることとくその信任を神聖に保つべきことを強く氣付くようになしたまえ。

われらは、教会の会員たちが「什分の一」と断食献金とを納むることが祝福をもたらし、且つ福音を世界の果てにまで宣べ伝うことを可能ならしめ、またあらゆる国とあらゆる地方の何所に教会が組織さるるとも数々の教会堂とタバナクルと最後に神殿を建つることによりて汝の目的を実行する助けとなることを認むるを感謝す。

大憲章

われらは、自由人は何人といえどもその貴族または国の法律によりて適正なる裁判を受くることなしに……捕えられ、獄に投ぜられ、または横領されまたは法律の保護を奪われ、または追放さるることなしという約束のなされし所、すなわち今日われわれが会合したるサリィ郡に於いて大憲章に署名がなされたることに對し感謝を表わすは似つかわしきことなり。

個人に對するこの保護は汝の聖きみこころに一致するところにして、人よりこの個人の権利と遺産を奪わんとした人々を国家の奴隸

にせんとするイデオロギーの鼓吹者は、直ちに汝の聖き目的に敵する者たる証印を自らに捺すものなり。

われらは、投票に訴えて事を決する自由民の権利と、法律を制定する会館に集りて独裁者秘密警察或いは奴隷収容所の恐れまたは威圧を受けることなしに諸々の問題を考えまた困難を解決する自由に対して感謝す。父なる神よ、至る所の民が政府は個人を保護するために存在して政府のための個人にあらざることを一層明らかに認識するよう助けたまえ。

われらは女王エリザベス二世、英国々会、および女王の領有したもう全国土に存する各政府を汝が恵みたまい、かくしてこの偉大なる政府が国法を適正且つ正しく施行することを称する。名声が絶えず称賛に値して維持されんことを乞い願いたてまつる。

またアメリカ合衆国の政府が、大英帝国とその領土と、南アメリカ共和国も含めて至る所に存する自由を愛する諸国と共に自治の原則を非常に神聖に保ちて、独裁と愚弄したる裁判と不正なる禁錮と強制的専制政治の共産主義政府を、自由を愛する諸国の民が永久に捨て去るほどあまねく非難すべきものとなす如き平和と静穏と進歩発展の機会とをこれら諸国の民に受けさせたまえ。

回復

ついに平和があまねくあらんがために、汝は再び福音を完全なるままに回復したまい、イエス・キリストの教会を權威を以て樹立したまえり。それにも、現に心の平和を乱し誠実なる男女の考えをゆがめつつある偽りのイデオロギーによりて影響さるる無数の人々あり。主よ、汝の御言葉を伝うる者たちが、あらゆる国と地方に

於ける誠実なる人々にキリストが「道なり、真理なり、生命なり」(ヨハネ伝十四〇六)ということをも、また「天の下にはわれらの頼りて救わるべき他の名を人に賜いしこと」(使徒行伝四〇十二)なきことを確信せしむる努力をなすに当りて主の導きと御守りが御言葉を伝うる者たちの上にあらんことを。

あらゆる地方に在る善意の人々が、世の人が論争と戦いとを放棄して、原子核に関する現代の偉大なる諸発見を戦争と破壊のためにあらずして平和と正しき生活の進歩のために利用せんことを望む日の来らんことを早からしむる努力をなすときに、これらの善意ある人々をめぐみたまえ。この目的のために、われらは汝が諸国の指導者に感化を与えたまい、かくして彼らの心が戦争を好まず、彼らの胸が偏見と疑惑と憎悪より清められて平和と好意に満たされんことを乞いねがいたてまつる。

汝の最も愛したもう御子キリストは、その肉体が墓の中に横わりし間に、かつてノアの時代に不服従なりしたため「ひとや」の中にある霊たちに福音を宣べ伝えたまい、かくして、すでにあの世に赴きし者たちもまた神の御言葉を聞きて生命と救いに関する永遠の原則に従わざるべからざることを証明したまえり。

数々の神殿は、汝の民をして生けるも死ぬるも永世にわたりて信仰と平和と愛のきづなもて結び合わする手段として汝の聖き御名のために建てられたり。

父なる神よ、永遠の原則とイエス・キリストの福音の中なる諸儀式に従うことによりてのみ、バプテスマを受くることなくこの世を

去りし愛する者たちが汝の王国に入る栄えある特権を許さるることを、今こそ如何なる時にも勝りて強くまた心より実感するようすべての者を助けたまえ。されば、汝の目的が完成さるるためになおさら大いなる努力を発揮するようわれらの願望を強くならしめたまえ。この目的のために、聖なる神権の権能によりてわれらは今この末日聖徒イエス・キリスト教会のロンドン神殿を献堂し、この神殿が建てられたる神聖なる目的を遂行せんがためにこれを聖別す。われらは、汝がこの建物を受け入れて基礎より頂上に至るまで守りたまわんことをねがいたてまつる。この神殿を地震、暴風雨またはその他荒廃を及ぼす大破壊より守りたまえ。われらは、この神殿の立つ土地と神殿の周りの土地とを奉獻してまつる。なにとぞ、浸礼盤と儀式用の部屋特にシーリングの行わるる部屋が神聖に保たれ、かくして汝の「みたま」常に其処にいまして慰めと靈感とを与えたまわんことを。すべての機械装置と備品との世話をする責任を負える人々を恵みたまひ、かくてこの人々が巧みに、忠実にまた恭々しきを以て責任を果さんことを。神殿の管理会長および婦人部門の長たる彼の妻を祝福したまえ。謙遜をして彼らの情を和らげしめ、智慧と親切なる思いやりが彼らの行為の導きとならんことを。彼らと、その助手および管理人として任命さるる他の人々とが、あらゆる部屋の中に清潔と神聖のふん、い、気を常に維持するように祈りたまつる。汚れたる人も物も決してこの神殿に入らしむることなかれ、何とならば主は「わがみたまは汚れたる殿に住むことなし」と仰せになり、また「みたま」は利己的、尊大または不健全なる思想の宿る

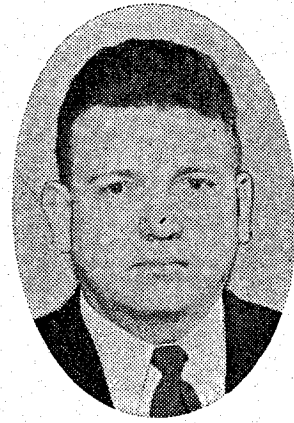
家に留りたまわざればなり。されば、この聖き神殿に入るすべての者は汚れなき手と純き心を以て来り、かくして汝の聖き「みたま」常にいまして慰めと靈感と祝福とを与えたまわんことを。もし何人にも陰うつなる予感または沈みたる心をもて入り来るならば、彼らの重荷を軽くし、彼らの信仰を強めて立ち去らせたまえ。またもし何人にもねたみまたは苦々しさを心の中に有つならば、自己吟味と寛大の念がかくの如き感情に置きかわることを得しめたまえ。またこれら神聖なる境内に来る者には、ことごとくおだやかにして神聖なる影響を心に感じさせたまえ。主よ、この境内を通過する人々さえも、または遠くよりこの神殿を望み見る人々さえも、汚れたる生活の野卑なる事物より目を高く挙げて汝を仰ぎ汝のみこころを認めんことを。

われらの天父よ、汝と同胞に対する愛によりて、汝を信ずる汝の教会の忠実なる会員その他の人々は、「什分の一」その他の惜しみなき寄附により汝の神聖なるこの宮居を建てて完成することを可能ならしめたり。

われらの献げ物を受け入れ、汝の臨在によりてそれを神聖にし、汝の力によりてそれを守りたまえ。

この祈りと共に、われらは世界平和のためと限りなき汝の栄光のために地上に神の王国を確立せんがため、われらの生命を再び奉獻したてまつる。

汝の最も愛したもう御子イエス・キリストの御名によりて、アーメン。



「産児制限」に関する警告

ポール・C・アンドラス

「産児制限」に関するわが教会の態度はどのようなでありますか。現在日本に於て「産児制限」の問題に關して非常に注意が集中されていますから、本伝道部に於けるわが教会の会員全部がこの事に関する教会の教えをよく知っておくのは特に大切なことであります。末日聖徒イエス・キリスト教会は「産児制限」に反対であつてこれまでいつもその通りでありました。わが教会の五代目大管長ジョセフ・F・スミス大管長は四十年以上前に次のような声明をいたしました。

「私は当教会の会員中に自分たちの子供の出産数を減らそうとする感情または気持ちがあることを遺憾に思う。私はそのようなことを著しい悪であると考えている。夫婦が健康強壯であつてその子孫に残す不純物を体に有つていない場合に、そのようなことは何所で起ろうとも犯罪であると私は考えている。人々が自分たちの子供の

出産数を減らすかまたは妨げようと企てる場合に、その人たちはやがて失望を受けると私は信じている。私はこの悪い行いが今日世界にある最も大きな罪惡の一つであるとちゅうちよすることなく言うものである」。

スミス大管長が出したこの声明によつてわが教会の態度は当時の教会員にとつて明らかになりました。わが教会の態度はそれ以来変わっておりません。わが教会は過去に於ていつも「産児制限」に反対であつたと全く同様に今日でも「産児制限」に反対であります。

「産児制限」に反対するこの方針によつて唯一つの例外は、母親または産児の健康か生命に危険がある場合であります。しかし、ここに於てさえも母親または産児の健康か生命に及ぼす危険が本当にであつて単に想像した危険やう、そこに造り上げた危険でないのなれば、妊娠を妨げることは主の前に於いて義しいと認められませ

ん。これは非常に重大なことでありますから軽々しく考えると罰を免れません。「産児制限」を行う人はことごとく主の前にその人たちの行いを説明するように要求されるにちがいありませんから、自分たちの利己的な欲望を満たすために「産児制限」を真面目に取扱わない会員たちは、故意に破った義しい神の律法が与える当然のことがめを確かに受けるにちがいありません。

今まで述べたことから考えて、母親か産児に及ぼす危険が本当の危険であるかどうかという問題は最も重要な事柄になりますが、各々の場合に夫と妻がどちらに決めるかは問題でありますから夫と妻は二人の決めたことに対して責任をとらなくてはなりません。

この記事の中で以上申し述べて来た事から、わが教会は「産児制限」に強く反対していることがはっきりしているはずであります。

従って、わが教会の方針は今の社会に広く行われている考え、特に「産児制限」を主な社会学者たちが先に立って唱え政府がこれに賛成している日本の社会に広く行われている考えと一致して居りません。社会学者や政府の役人方は「産児制限」が急速に増加する日本の人口問題を解決する唯一のものであると確く信じています。しかし、私は真の神の真の教えを信じてこれを実行することこそ人口過剰から起るいろいろな問題を解決するに至る道であると確信して居ります。真の神の真の教えを毎日の生活で実行する人が多くなるほど、私たちは以上の諸問題の解決に近づくのでありますから、私はわが教会の会員たちが先へ進んで母親の健康と力が許す範囲内で子供をもち、これを忠実な教会員に育て上げるようにはげますことを強く感じています。忠実な末日聖徒が数多く居ることは日本および全世界を通じて非常に必要であります。

今世の中には、一人または二人以上の子供は養って行けない、それであるから受胎あるいは出産またはその両方を予防することは必要でありまた賢明であると主張して「産児制限」を行っている夫婦が多くあります。この考えは間違った考えであるから末日聖徒は一人もまどわされてこのような考えを受け入れてはいけません。末日聖徒である両親たちは、主は自分らの子供たちに必要なものを当然与えるべき資力を恵みたもうに違いないという信仰をもって、大勢の家族をもつべきであります。もし末日聖徒である両親たちが、主の教会の教えを注意して忠実に実行するならば、主はその家族の一人一人が皆幸福と救いを受けるに必要なすべてのものを与えて確かに祝福したもうにちがいありません。

日本では医学による堕胎が今や合法であるために不幸にも広く行われています。こういうわけで、私はこの悪い慣習に陥らないようにわが教会の会員に警告をすることが私の為すべきことであると強く感じています。聖典から見て堕胎が殺人にどれほど近いかは明らかでありませんが、故意に堕胎を行う人は誰でも神の法廷に召された時にその行いに対して説明をするよう確かに要求されるにちがいありません。わが教会の会員でない人たちは福音が解っていないからこれが大きな罪科であることを本当に知らなかったという言いわけをすることができません。その人たちはそれで恵みを受ける資格がおそらくあるでしょうが、わが教会の会員たちはこのような弁解をすることができないであります。もちろん、もしも出産が許されるなら母親の生命が危いという或る場合には堕胎が正当であることもまた有り得るのでありますが、それでもその危険は本当であって想像上の危険とかう、それに造り上げた危険であってはな

らないと再び強調しなくてはなりません。このような稀な場合にどうすべきかの決定は、このような場合には夫と妻はその事柄を真剣な祈りの対象とするように提案いたします、また二人は善良で義しい長老たちを呼んで主がその長老たちを通して二人に何と仰せになるかを知るように、また二人はいつも信仰のもつ偉大な力を思い起して、その信仰が二人をどこへ導くかを知るために自分たちのもっている信仰を験してみるように提案いたします。夫と妻の二人が以上の事を為し終ったときに、夫と妻は何を為すべきかに就いて自分たちの結論に達しなくてはなりません。

さて、わが教会の会員になる前に「産児制限」か医術による堕胎を犯した覚えのある人々が教会員の中にあるかも知れません。また教会の会員になってからこのようなことを犯した覚えのある人々がいくらかあるかも知れません。これらの人々に対して今為すべき最も善いことは悔改めであると言わせてもらいたい。また私はこのような人々の一人一人にことごとく、以上のような悪い慣習を速かにまた完全に悔改めるよう励ます次第であります。もちろん、諸々の罪をぬぐい去ることができるのは主だけでありますから、主の赦しを得ることができなはいかはその罪の性質と事情と悔改めの真面目さによります。聖典は殺人の罪が赦されないことを明らかにしておきます、すなわち「さて見よ、われわが教会員に告ぐ。汝ら人を殺すなかれ。人を殺す者は、この世に於てもまた来世に於ても赦さるることなし」と（教義と聖約四十二〇十八）。また前に述べました様に聖典からは故意の堕胎が殺人にどれほど近いかはつきりして居りません。従って、堕胎を犯した覚えのある人々は自分に赦される資格があるかないか審判の日まで解らないかも知れませ

ん。それにもかかわらず、為すべき最も善いことは悔改めをして主の慈悲にお任せをすることであります。

どうか教会の会員一人一人が皆教会の教えにいつも変らず忠実であるように心から祈り奉ります。

★ ★ ★ ★

「この教会は固き基の上に立てられている。この教会は人間から出たものではない。新約聖書や旧約聖書の研究から生れた教会でもない。また大学や神学校で得た知識の結果として作られた教会でもない。この教会は主より直接に与えられた教会である。主は光の聖き「みたま」の原則を啓示したもう事によって、この教会をわれ／＼にお示しになったのであり、われ／＼もみなこれと同じ「みたま」を受ける事が出来るのである。」

ロレンゾ・スノウ

「わが教会は、他の建築物の塀を叩きこわして手に入れた煉瓦や土台から造られてはいない。そしてまた、それは現に存在する他のいかなる宗教組織から分離して生まれたものでもない。それはひとえに頭なる神、主なる救主イエス・キリストのみちびきによって世に存するにいたったのである。そして当教会が世に設立された所以は、これなくしては人類が破滅してしまうかも知れなかったからなのである。」

ゼームス・E・タルマッジ

「新エルサレム」

佐藤 龍 猪

我また聖なる都、新しきエルサレムの夫のために飾りたるはなよめ
の如くそなえして、神のもとを出で、天より下るを見たり。

(黙示録二十一〇二)

一、「福千年」中の聖都

聖書の中にはエルサレムと全く別の地で

ある「シオン」のことが度々出てくる。すなわち予言者ミカは「これによりてシオンは汝のゆえに田圃となりて耕やされ、エルサレムは石堆となり宮の山は木の生いしげる高き所とならん」(ミカ三〇十二)と言ひ、また「末の日にいたりて主の家の山もろろの山の頂に立ちもろもろの峯をこえて高くそびえ万民川の如くこれに流れ帰せん。すなわち多くの民来りて言わん。いざわれら主の山に登りヤコブの神の家に行かん。主その道をわれらに教えてわれらにその道を歩ましめたまわん。律法はシオンより出

でエホバの言はエルサレムより出ずべければなり」(ミカ四〇一・二、イザヤ二〇二)と言っている。

「シオン」という言葉はいろいろな意味に用いられている、すなわち(一)エルサレム城内の小丘(二)エルサレム(三)ミカが末の日に建てられると予言した「主の家」の山すなわちエルサレムと異なる他の場所等に用いられているが、予言者ジョセフ・スミスに下った啓示によれば(四)エノクの建てた「聖なる市」をシオンと呼び(高価なる真珠モ一セの書七〇十八―二十一)(五)「心の清き者」を含んだ神の教会をシオンと呼んだ(教義と聖約九十七・二十一)。

しかし予言者ミカおよびイザヤの指して

言っている「シオン」は(三)の意味すなわちダビデの居たエルサレムでない他の場所のことである。また聖書の中では「シオン」をエルサレムと明らかに区別して言っており、その「シオン」がエルサレム城内にある「シオンの丘」でないことは次の予言によつて明らかに知ることができる。すなわちヨエルは「主シオンよりよびとどろかしエルサレムより声をはなち……かくて汝らわれは主なる汝らの神にしてわが聖き山、シオンに住むことをしるべし。エルサレムは聖き所となり他國の人は重ねてその中を通うまじ」(ヨエル三〇十六・十七)と言ひ、ゼパニヤは「シオンの娘よ歎喜の声をあげよ。イスラエルよ樂しき呼ばわれ、エルサレムの娘よ心の限り喜び樂め」(ゼパニヤ三〇十四)と言ひ、またゼカリヤは「再びシオンを慰め再びエルサレムを選びたもうべし」(ゼカリヤ一〇十七、二〇七―十二)と言ひ、イザヤは「よき音信をシオンに伝うる者よ、なんじ高き山にのぼれ、よき音信をエルサレムに伝うる者よなんじ強く声をあげよ、こえをあげておそるなかれ」(イザヤ四十〇九)また「汝のきよき諸邑は野となり、シオンは荒野、エルサレムは廢墟(欽定訳イザヤ六十四〇十)と言っている

キリストが再臨したもうて義の統治が行われる時、すなわち「福千年」中には二つの聖都があり、その一つは東半球にあつてエルサレムであり、他の一つは西半球にあつて「シオン」——新エルサレム——である。

二、エルサレムと新エルサレム

予言者ジョセフ・スミスに下った啓示によつて「シオンの市」と「新エルサレム」とは同一であることがわかる（教義と聖約二十八〇九、四十二〇九・三十五・六十二・六十七）。特に教義と聖約四十五章六十六—六十七節には「而して汝らこれを新エルサレム、平和の地、避所の町、いと高き神の聖徒の安全の地と呼べ。而して主の栄光その上に輝かん。主の恐ろしさもまたその処にあらん。ために悪しき人々そこに入り来らざれば、汝らはこれをシオンと呼べ」と明らかに言つてある。また教義と聖約八十五章二—五節には「誠にその予言者たちの口によりて語りたまえる如く、主の民を回復する目的を以てまた新エルサレムの市となるべきシオンの山に立つためにその聖徒らを集むる目的を以てこの末の世に創立

せられたる主の教会に関する主の御言なり」と言つてある。

イスラエルであるヤコブがその息子のヨセフを祝福した時次のように言つた。「ヨセフは実を結ぶ木の芽の如し、すなわち泉の側にある実を結ぶ木の芽の如し。その枝ついに垣を越ゆ。……父の汝を祝するはわが父祖の祝したる所に勝りてとこしなえの山の限りにまで及ばん、これらの祝福はヨセフの頭に歸し、その兄弟と別になりたる者の頂きに歸すべし」と（創世記四十九〇二十二—二十五）。ヨセフは誠実であつたらその兄弟の中の誰よりも大きな祝福を受けてシオンの地を恵まれた。ヨセフの兄弟たちが悪い心を抱いて彼と別れ彼を自分たちの中から追い出したから、主はヨセフとその兄弟たち——イスラエルの他の支族——から分けて、他の如何なる土地にも勝る選り抜きの土地の中の産業を与えてヨセフを恵みたまうた。モルモン経はその土地が西半球にあるシオンの地、アメリカ大陸であることを告げている。すなわち主はニーファイ人に告げて「われはわが民なるイスラエルの家を回復し、またわれがこの地に居る民の先祖なるヤコブと結びし誓約をこと

ごとく果たすため、汝らの子孫をしてこの地を治むる者としていつまでも住まわせこの地を新エルサレムとなさん。また天の権と力とはこの民の中にあり、われもまた汝らの中にあるべし」と仰せになった（ニーファイ第三書二十〇二十一・二十二）。またモロナイはジェレド人に就いて「イテルはキリストの時代を先見し、この地にあるはずの新エルサレムと、イスラエルの家とリーハイの立去るエルサレムのことを話した。エルサレムは破壊されてから再建され、聖い都として主に捧げられるのであるから、昔に一度あつてからイスラエルの家の住む所として再建され、主の聖い都になるものであるから新エルサレムとは同じでない」とイテルは説き明した。また新エルサレムはヨセフの子孫の残っている者たちのためにこの地に建つと言つた」と誌している（イテル書十三〇二—五）。これよりして、アメリカ大陸がヨセフとその子孫に与えられたシオンの地であつて、シオンの市すなわち新エルサレムの建つべき地であることがわかる。またパレスチナの地にあるエルサレムが再建されて聖なる都となることもわかる。これらシオンの地に一つとパレスチナの地に一つある二つの都は「福千年」中に各々神の王

国の首都となって、律法はシオンから主の言はエルサレムから出るはずである。

三、新エルサレムの建設

モルモン経には西半球に建てられるはずであるこの新エルサレムに就いてかなりくわしく予言してあるが、それが建てられる位置に就いてはジョセフ・スミスの時代になつて神権が回復されるまで啓示されなかつた。しかし、千八百三十一年三月七日オハイオ州カートランドに於て予言者ジョセフ・スミスによつて教会に与えられた啓示の中で始めて新エルサレム建設の約束が述べてある（教義と聖約四十五〇六十五―六十七）。つづいて千八百三十一年六月七日オハイオ州カートランドで与えられた啓示によつて次の大会を開く場所をミズーリと指定され、長老たちはこの命に従つてカートランドからミズーリに集つた。そして、その地を聖徒の集る所と指示し、聖別した所とした。教義と聖約五十七章二―三節には「この故にこは約束の地にしてシオンの市を建つべき所なり。主なる汝の神かくの如く言う。汝らもし智慧を得んとすれば、そこはここにあり。見よ、今インデペンデンス

と称えらるる地はすなわち中心の地にして、神殿の建てらるる一地点はその西方に当り裁判所より遠からざる地所にあり」とある。このように神殿建築の地点が明らかに示されたから、千八百三十一年八月三日ジョセフ・スミスはミズーリ州ジャクソン郡インデペンデンス町の一地点を神殿建築の地として奉獻した。インデペンデンスの町は「中心の地」と呼ばれ、聖徒たちは一時も早く新エルサレムすなわちシオンの市を建設し同時に神殿が建つことを希望した。しかしながら新エルサレム建設の計画はいまだに実現していない。主は千八百三十一年八月一日に下したもうた啓示の中で「汝らは今後来らんとする事などに関する汝らの神のみこころ、および多くの艱難の後、に續いて来るべき栄光に就きては、現在肉眼を以てこれを見ることを得ず。多くの艱難の後に祝福は来る。この故に汝らが大いなる栄えの冠を受くべき日は来るなり。而してその時は未だ来らずといえども近きにあり」と仰せになった（教義と聖約五十八〇三・四）。また別の啓示に於ては、教会の長老たちが天よりの権能を受けて万国の民に福音を宣べ伝えるために出で行き、シ

オンが建てられる前に「世界の隅々より人々を押し集めん」（教義と聖約五十八〇四十五）と言つてある。主は最初から聖徒たちに向つて、多くの事が成就されるまで新エルサレムの建設と神殿の建築は延ばされるのである。而して聖徒たちは多くの苦難を踏みこえなくてはならぬと仰せになっている。ジャクソン郡インデペンデンス町に於て神殿建築の地が奉獻されてからすでに百年以上の年月が経っている。しかし主が昔イスラエル人に、カナンを彼らの嗣業の地として与えたと約束したもうてから、実際にイスラエル人がカナンの主となるまでには永い年月が経過した、またその間にイスラエル人は多くの艱難辛苦をふみこえなくてはならなかつた。この末日の代に於ても新エルサレムが実際に姿を現わすまでには多くの事が成就されなくてはならない。

参 考

イザヤ（二〇二―五、四十〇九、六十四〇十）ミカ（四〇一―七）ヨエル（三〇十六・十七）エゼキエル（三十七〇十五―二十八）創世記（四十九〇二十―二十五）黙示録（二十一〇二）ニルファイ第一書（二〇二十）ニルファイ第二書（二〇二―五）ニルファイ第三書（二一〇二十二、二十一〇二十九）イテル書（十三〇一―十二）モーセの書（七〇七―二十一、六十二―六十四、六十八・六十九）

極東に於けるモルモン

私の改宗



柳 田 聰 子

(名古屋支部)

ないという事も聞いて居りました。長男はその翌年の四月に小学校に入るといふ頃の事です。

私は死というものについて不思議に怖れも不安も感じて居りませんでしたが、二人の子供については本当に心配しました。夫が再婚してもしなくても子供たちには両親揃っている家庭に育つような環境を与える事は出来ません。私は世の中に不幸な境遇の為に性格がゆがんで他人から嫌われる可哀そうな人たちがあつた事を見聞きしていましたが、この子供たちがその様な状態にならない様にと切に願つて、どうすれば母親が居なくても素直で明るい青年に育つかを考えました。当時私たちの家庭には、主人が分家した新しい家庭のせ

いもあつて、仏壇も神棚もなく、彼は技術関係の会社員で、私が居なくなつた場合子供たちの様な内面的な事をどれだけ考えてくれるか余り期待出来ないと思われました。私はその時「宗教だ」と思いました。誰にも頼らないでも家庭の中に宗教的雰囲気があつたら子供は幼い時からそれを受けて素直な人間に育つのではないかと考えました。私たちに生活の中にはつきりした宗教はありませんでしたが、私自身幼い時から非常に宗教的な雰囲気の中に育つて居りましたので、その様に思いついたのかも知れません。(でもこれは遠大な主の御計画とお導きであつたと今にして思い当るのですが)私は戦時中に国家的に行われていた神道を考へて、兎に角神棚を買いましたが、少しも信頼感が湧いて来ません。そして実家に居る時ふと父に「名古屋に帰つたら何処か覚王山あたりに教会を探して行つてみようかしら」と話しました処、父は「鳴海に行けばブライスさんが居るから東京の高木富五郎の娘だといつて行つてごらん」と云うのです。その後私が浦和に居る間に今の伝道部長(当時まだ若いアンドラス長老)とマクダニエル長老が父を訪ねて来られました。私はただ昔から英語が好きだったのでア

一九四八年、まだあの終戦後の疲弊しきつた世相が回復し切らなかつた頃でした。私は年末に絨毛上皮腫という癌の様な恐ろしい病気で大手術を致しました。まだ学校に行かなかつた二人の子供は浦和の実家の両親の許に預けられ、私は大病院に入院したのでした。そして退院後、人手がないので、私も又実家へ静養に行きました。この病氣は転移が早いので手術はしたものの、いつ再発するか危ぶまれて居りました。再発すれば、それは脳か肺に出るといふので、そうすればもう助から

メリカ人に興味を持って父とお話して居られた彼らの席へ出て行きました。その時は別に特別なお話は伺いませんでした。が、彼ら御二人は私が初めておめにかかった宣教師でした。それから一ヶ月程後に一応元氣になって名古屋に子供たちと共に帰宅したのです。そして再発したかどうか検診する為に度々大学病院へ通い、子供を案ずる気持は去らないで居りました。それでも鳴海町というのは行ったことない処なので億劫でなかなか行きませんでした。他の教会を探すこともせずに。四月六日桜の花が咲いだした頃私はふとその氣になつて子供を主人に預けて一人で鳴海へ出かけて行きました。途中で二回程聞き乍ら漸く集会を開いていた小さな公会堂に辿りつき、すると、ニコニコした外人がよって来て握手しました。その方がプライスさんで（その頃みんな長老と呼ぶよう呼んでいた）父の事を話しますと、「あなたのお父さんはよく知っています。東京で一緒に働きました」という事でした。私は帰途長老のお宅にお寄りして、写真等みせて頂きましたが、一緒にいらした方はネルソン長老でお二人共ほんとに親切にして下さいましたので、私はすっかり楽しい気持でそこに暫くお話しして帰宅致しました。

幼い子供が二人居るし、名古屋の東山の方に住んで居た私は鳴海をひどく遠く感じて、毎週行く事は難しかったのですが、行ける日はなるべく行きたいと思つて居りましたし、折をみては出かけて行きました。七月から名古屋の一人の方の御宅で月曜日の夜の集会がはじめられ、それはMIAといつて、はじめマタイ伝を一章づつやつてはあとでゲームをするのでした。単調な家庭の主婦として家事と育児に明け暮れていた私にとって、これはほんとに楽しいものでした。元来引込み思案な処のある私が、名古屋に来て交友もなく、ただ家の中に子供相手に暮して居ましたのが、一つの勉強をしながらお正月の様にゲームをするのが珍しく、学生に戻った様な氣がして、また長老たちが特に嬉しそうに迎えて下さいましたので、それからは幼い子を二人主人に托して彼は時折私の無責任を非難しましたが、それでも毎週その会に出かけて行きました。小学校一年になった長男の夏休みを利用して、静養の為また私は子供二人と共に浦和の実家へ行きました。その時鳴海で御世話になったプライス長老は本部に転任になつて居られましたので父と共に本部を訪ね、手紙で前以つてお願いしておいた通りそこでプライス

長老からバプテスマを受けました。私は教義について殆ど何の知識もなく、誠命についても全部を知らないまままだ早くこの教会の会員になつて安心したかったのでした。確か、東京や高崎の方々皆でその日十二人がバプテスマを受け、同じ日鳴海や大阪でも浸礼式があるという事でした。北支部の今は亡き相良兄弟がその日の最初で、次に私が受けました。そしてクリソード伝道部長の確認と祝福の按手礼を受けました。何もかもよく解らぬままにバプテスマを受けて、無我夢中だった私は、今振り返ってみるとわずか十年前の事でありながら、小学校入学の時の様な遠い想い出となつて居ります。

それから翌年一月八日に私たちの祈り求めていた名古屋支部初めての日曜学校を開き、少い会員の一人として未熟ながらいろいろお手伝いの責任を頂いて、どうやら少しも離れる事なく現在は夫も二人の子供も神権を頂き私が初めに秘かに願つていた家庭内の宗教的雰囲気もいつのまにか頂く事が出来て、その他の事は考えても居なかったのに生活そのものが明るく健康で幸福な日々となりました。すべての点でお恵とお護りのある事を感じつつ感謝の毎日をごさして頂いて居ります。



ヘンリー・D・モイル

— 第二副管長に関する印象 —

リチャード・L・エヴァンス

(十二使徒評議員会々員)

彼について述べる事は極めて多いが、その中の若干は一九五九年六月八日のユタ大学卒業式に於て、法学博士の称号がモイル兄弟に授与された時にカール・J・クリスチャン博士の読んだ言葉によって代表されている。これはモイル兄弟が大管長会の会員に召される四日前のことであつた。

「総長殿、

私はユタ大学から、文学士及び鉱山技術の面で理学士の称号を受け、シカゴ大学より法学博士を受け、更にドイツのフライバークにある世界で有名な鉱山大学で地質学の研究をし、またハーヴァード大学で法律を学んだヘンリー・デインウッド・モイル氏を紹介出来る事をこの上ない名誉と存じます。

モイル氏は今まで、また今日でもユタ州のために多くの著名なる奉仕の経験を持ち、その人格のすばらしさは万人の認める所であります。

モイル氏は法律家としてユタ州の弁護士としてその務めを果し、また産業の方面では油脂産業、自動車工業、牧畜業の発達に著しい貢献をされました。更に教育者としてはこの大学で二十五年の間法学の教授として奉仕し、現在ではブリガム・ヤング大学行政局の

一局員であります。軍隊の一員としてモイル氏は第一次世界大戦に陸軍大尉であり、ユタ州立大学の ROTC で教え、またソルト・レーク市にあるアメリカ在郷軍人会の第二部隊の指揮官でありました。モイル氏は公共事業の方面でも現在ユタ州水力、電力会社の社員で、第二次世界大戦の頃は第四地方局を管理する石油産業協議会の会員であり、また一九四〇年ではユタ州知事の著名な立候補者でありました。

社会事業家としてモイル氏は末日聖徒イエスキリスト教会の福祉計画設立にあたって主動者として活躍し、現在ではこの活動の総会長であります。

教会員としてモイル氏は教会の幹部役員の一人であります。

私はモイル氏が以上のように人間的な活動の広範な分野に於て他人に対してすばらしい奉仕を果した方である故、ユタ大学の評議員会に代りヘンリー・D・モイルに法学博士の称号を授与するよう推薦致します。」

モイル兄弟は以上の如き人であるが、実際はまだく彼について述べる事は多くある。

彼は忍耐をもって問題に立ち向い、正しい

健全な事を保持するためには、それに対する如何なる反対をも物とせず、決して自己の見解を曲げる事はしない。

彼は病氣の人、また問題など悩んでいる人たちには常によりき相談相手である。

モイル兄弟とその妻アルバータ・ライト・モイル姉妹との間には六人の子供がある。

大管長会組織とる

六月十二日金曜日朝、教会の事務室で開かれた大管長会と十二使徒会による特別集會に続き、デビッド・O・マッケイ大管長は J・ルーベン・クラーク・ジュニアを第一副管長に、ヘンリー・D・モイルを第二副管長に任命すると発表した。

クラーク第二副管長は一九五一年四月九日より第二副管長として奉仕して来たが、今や一九五九年五月十九日、期せずした天に召されたステイヴン・L・リチャーズ第一副管長の後を嗣いでその任に奉ずることとなった。

そして一九四七年四月より十二使徒の地位にあったモイル兄弟がクラーク兄弟の後を嗣いで第二副管長となった。

クラーク第一副管長は現在八十七才で一九

三三年四月に大管長会に召された。そして十八ヶ月の間ヒーバー・J・グラント大管長に第二副管長として仕え、一九三四年十月にグラント大管長の第一副管長として支持された。その時から一九四五年五月までグラント大管長による大管長会はクラーク第一副管長、マッケイ第二副管長によって組織された。またこの二人は一九四五年五月から一九五一年四月までジョージ・アルバート・スミス大管長の第一、及び第二副管長として働いた。

クラーク第一副管長はこの神権時代に於て他のどの長老よりも長く大管長会で働いている。すなわち、すでに二十六年以上の間、グラント大管長、スミス大管長、マッケイ大管長の下で副管長として働いている。

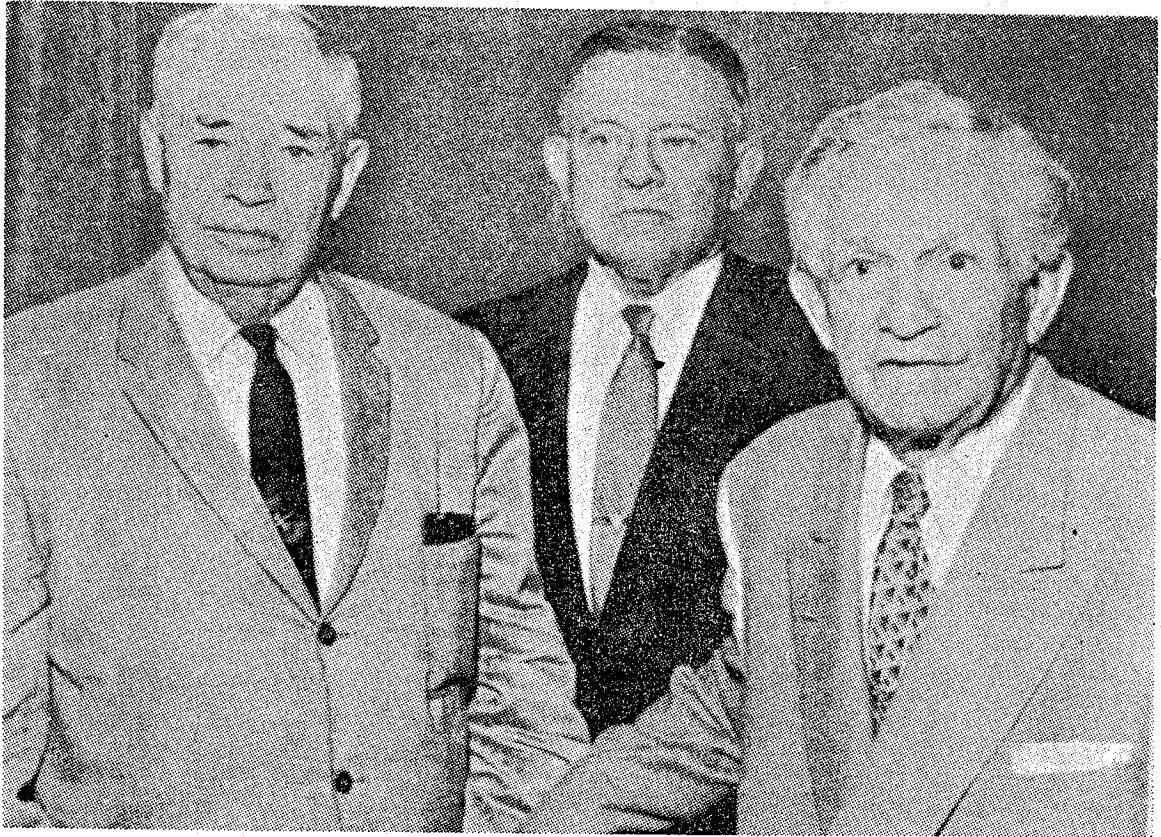
クラーク副管長は一八七一年九月一日ユタ州のグランツヴィルで生れ、職業は法律家である。彼は教会幹部の中で最年長であり、教会の律法と、イエス・キリストの生涯についての鋭い研究家でもある。

ヘンリー・D・モイル長老は一九四七年四月から十二使徒の職の召されていた。彼はジェームス・H・モイル夫妻の息子として、一八八九年四月二十二日ソルト・レーク市に生

れた。彼の父はウッドロー・ウィルソン大統領の下で財務長官補佐として国際的に知られ、またフランクリン・D・ルーズベルト大統領行政下にあつては米国関税の弁務官として働いていた。

一九三六年に教会の総福祉委員会が組織された時から、ヘンリー・D・モイルはその会長であつた。彼はまた三つの油脂精錬会社の社長及び家畜業社の社長として働き、西部実業界の指導的地位にあつた。彼はまた国際石油審議会の会員であると同時に、アメリカ石油協会の理事長でもある。

モイル長老はユタ大学で鉱山技術方面の称



号を得てから、一九〇九年ドイツに伝道した。ヨーロッパから帰る前、彼はドイツのフライバーグ大学で地質学を研究し、米国に帰つてからは、ユタ大学、シカゴ大学、ハーヴァード大学で法律を学んだ。彼は第一次世界大戦まで弁護士をやっていたが、後陸軍大尉となつて、カルフォルニア州プレシディオにある将校訓練所で教鞭をとつた。

モイル長老とその妻のアルバータ・ライトとの間には四人の娘と二人の息子がある。福祉委員会が組織されるに先立って、十年の間彼はコットンムッド・ステーク部の部長であつた。彼はまた二十五年の間ユタ大学で法律を教えた。

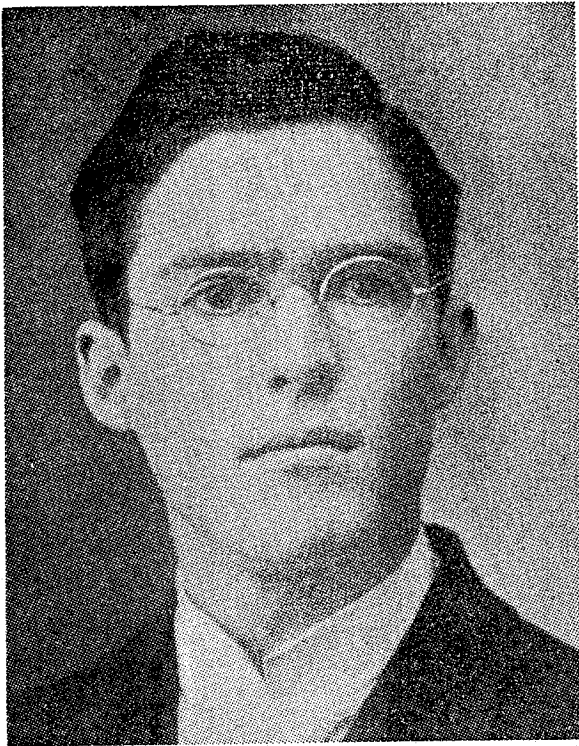
★ ★ ★

新しく組織された大管長会

右からデビッド・O・マッケイ大管長、（一九〇六年四月九日に十二使徒に任命されている）ヘンリー・D・モイル第二副管長（一九四七年四月十日に十二使徒に任命されている）J・ルーベン・クラーク・ジュニア第一副管長（一九三三年四月七日にグラント大管長のもとに第二副管長として召されている）

モルモン経日本語訳出版五十周年記念

千九百九年十月十日出版



アルマ・O・テラー

モルモン経を日本語に翻訳しようという議
は千九百四年一月十一日に開かれた宣教師会
(日本伝道部)の席上できまった。始め各宣
教師は各自任意の章を翻訳し、後各々がその

成果を持ち寄って編集しようとした。しかし
半年後にこの計画が旨く進行しないことがわ
かって、アルマ・O・テラー長老がこの事業
の専任となった。翻訳の事業は二段構えとし

始め訳文をローマ字で書き、次
にこれを日本字になおした。千
九百五年七月四日テラー長老
が伝道部長に任命されたによっ
て、フレッド・ケイン長老が助
手となってローマ字を日本字に
直すことを手伝った。最初の翻
訳は二年たらずで完成したが、
次に改訂を施すために千九百六
年の五月から千九百七年の十二
月までかかった。しかし原稿が
見苦しくなったので二人の日本
人がこれを清書し、テラーと

(仙台在住)に訂正を依頼したところ、二氏
共に口語体の訳文を文語体にして返した。テ
ラー長老は当時訳文を良い口語体にするこ
とのできる人が日本に二三人しかいないこと
を知り、訳文を文語体にする方がはるかに容易
であることを悟って文語体を採用することに
きめた。

そして前記平井氏の兄弟である平井広五郎
氏に批評を依頼した。その報酬は一年余りの
期間に対して当時の金で千五百六十八円であ
った。その後別の学者に読んでもらい、更に
数人の人々に読んでもらった。これらに要す
る金額の見積りは千三百ドル乃至千五百ドル
であった。つづいてテラー長老は坪内逍遙
および夏目漱石の二氏に願おうとしたが、時
間がないという理由で二氏の批評を得ること
はできなかった。しかし夏目漱石氏は東京帝

ケインの二人の長老が清書さ
れた原稿を校正した。これま
で訳文は言文一致体(口語体)
で書かれていたが、当時の日
本人たちは文章体(文語体)
でなければならぬと強く主
張した。それでテラー長老
は平井氏および鈴木慰太氏

大を新たに卒業した生田広春氏を紹介してよこした。ティラー長老は生田氏が有能の士であることを知って千九百八年七月二十九日に氏と契約を結んだ。生田氏はその仕事に対して当時の金で百円の報酬を毎月受けることになった。

生田氏は千九百八年八月一日訳文を文語体に直す仕事を始め千九百九年一月三十一日これを完了した。これと同時にティラー長老は前記平井広五郎氏および当時の文筆家河合孝三郎氏の許に赴いて批評を乞い、また数人の日本人を時々傭っては訳文を読んでもらい、その提議に耳を傾け、これらの人々に最後の清書をさせた。そしてケイン長老は漢字に仮名をつけた。

千九百九年六月十日、翻訳の事業は完了した。印刷出版のために入札が行われ、いよいよ印刷が始まって校正刷が来た。ティラー、ケインの二人の長老および校正のために傭った滑川氏の三人は四校まで校正を行ったが、或る部分は六校七校までも校正を行った。千九百九年七月三十日最後の校正を終り、十月六日製本を終った二部が内務省に納本された。それから五日後、すなわち十月の十一日に五千部印刷出版した中の一千部が伝道本部

に届けられた。

これより前に東京市内百三十二軒の書店と



市外三百二十三軒の書店に手紙を出しておいたところ、各書店はモルモン経一部を定価一

円也の三割引を以て引受けること、もし五十部以上注文を発した場合には、その書店の所在地と店名とを二回新聞紙上に広告をしてもらうこと、百部以上のときはパンフレット「モルモン経の手引」を同数添附すること、二百部以上のときは更に一割の割引きをすること等の条件を出した。全部で五千部を印刷出版した中で特に八十部は革で製本され、皇室を始めとして各大臣および高官の許に贈られた。天皇（明治）と皇太子（後の大正天皇）とに献上したのは、表紙に金銀の図案を特に配し深紅色と濃い紫色のモロッコ革を以て製本した見事なものであった。皇后と皇太子妃とに献上したのは表紙に金の図案を配し純白色のモロッコ革で製本したものであった。また三十部は当時の枢密顧問官に贈られた。

モルモン経の初版を印刷出版するに要した費用はすべての入費を含めて総計三千百九十九ドル五十六セントであった。この中で約四割が筆耕と検閲訂正の費用として、約二割五分が広告に残りが印刷出版の費用として使われた。（マレー・L・ニコルス著「日本伝道部の歴史より抄録」）

ロレンゾ・スノウ大管長の死

千九百一年に開催された十月大会のとき、スノウ大管長は病に犯されて最初の集りに出席ができなかった。大会の三日目（最終日すなわち十月六日）に大管長はいく分衰弱していたが、出席して長い話をした。大管長の話がすんで教会幹部の支持があった。千九百一年四月十二日にジョーヂ・Q・カノン副管長がカリフォルニアで亡くなっていたからジョ



ロレンゾ・スノウ

むと遺体はスノウ大管長が前に住んでいたブリガム市へ特別列車で運ばれ、教会の幹部と無数の会衆の面前で葬られた。

附記、教会歴史はスノウ大管長の事業に就いて次のような記事をのせている。

「スノウ大管長が教会を治めていた終り近くにきわめて興味のある出来事が起った。それは日本に伝道部を開くことであつた。全世界に福音を宣べ伝えよという誠命に従つて、スノウ大管長は極東に住む褐色の膚をした小さな人々に宣教師を送ることになった。十二使徒評議員会々員のヒーバー・J・グラント長老は千九百一年二月十四日日本伝道部を開くために選ばれた。それからホレス・S・エンサイン長老、ルイス・A・ケルチ長老、アルマ・O・テラー長老の三人がその仕事を助けるために召された。以上の長老たちは千九百一年七月二十四日に日本へ向けて出発し八月十二日に横浜に着いた。

日本人に福音を教える仕事は、彼らが長年にわたつて異教の教えを信じているために、また長老たちが日本語を覚えるのに困難を感じているためにその歩みは遅かつた。テラー長老はほかの長老が帰国した後伝道部長となり合計九年間日本に留つた。」

末日聖徒の正しい結婚

ブリガム・ヤング

「男女がエンダウメントとシーリングの儀式に与り、その後、二人に子供が生まれる様になると、これらの子供達は、神の国とそれに伴う祝福及び約束を合法的に受け継ぐ者となる。

物事をはっきり理解している男の人で、正しく結婚するためであるなら、ここから英国までも喜んで行つても良いと考へない人はいない。又福音を愛し、その祝福に与ることを欲する女の人であるなら、神の定めたもう方法以外の方法によつて結婚しようなどと考へはしない。これらの人たちは、たとえイサクの生れる時のサラの年令位までも、未婚の状態で生きるとしても、適切な結婚の出来るまで結婚せずにおることだろう。兄弟たちの多くは、以上の様な事柄に何ら考慮を払うことなく、又その重要性に何ら心することなくして、自分の子供たちを縁ずけてしまふ。私は、われ／＼すべてが、神の理解したもう結婚の光明をよく理解する様に望んでいる。」

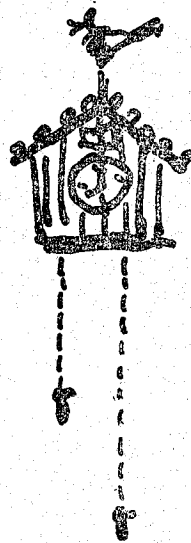
(半) 世紀程前のある著作物の中で、アー

ノルド・ベネットは次のように書いた。「哲学者たちは空間について説明したが、時間については説明しなかった。時間は説明し得ないすべてのもののもとなるもので、時間があればすべては可能であるが、時間がなければ、すべては何物でもない。誠に時間の供給は日常の奇蹟である……。朝目をさます時、あなたがたの財布は二十四時間という時間で不思議に一杯である――。

この時間はあなたがたのものであり、最も貴重な所有物である。如何なる人も一日に二十四時間を与えられるのであって、それ以上に与えられる人も、またそれ以下に与えられる人もいない。更に加えて、あなたがたは未来を招き寄せる事は出来ない。たゞ過去の時間は費されたと云えるが、明日という時間を勝手に招き寄せることは出来ない。明日という時間はあなたがたのために保存されている。故に、来るべき時間を浪費することは出来ない。それはあなたが

たのために保存されている。あなたがたはこの二十四時間という時間の上で生活しなければならぬ。この時間の中から、健康、喜び、金銭、満足、尊敬、それから不滅の靈魂の進歩を織り出さねばならない。この時間を正しく使い、最も能率的に使う事が最も力

時間の全体



リチャード・L・エヴァンス

説すべき事である。すべての事柄はこの「時間」に依存している」と。

(わ) れわれは自分のやりたい事に対する時間の有無を思うとき、必ずそこにある時間の全体をまじめに考え、これらの時間の使用方法に思いを至すであろう。一週間は百六十八

時間であるが、こゝから労働の時間として四十時間を取り除いてみよう。そうすると、百二十八時間残る。次に一日八時間睡眠すると一週間の睡眠時間は五十六時間になる。勿論ある人の仕事の時間や睡眠時間はこれより長かったり、短かったりする。

(あ) ちこちに行き来する事も多いし、また種々なる活動や責任も数多い――このような事にも時間は費される。しかし、百六十八時間引くことの四十時間、更に引くことの五十六時間とすれば、毎週何事かをなすために七十六時間があるわけである。仕事、睡眠及びその他すべての活動のために必要な時間を割り当てるとすれば、このようにわれわれはまず時間の全体を考えねばならない。ジョン・ラスキンは「明らかに述べられた一つの大きいなる事実がある」と書き、「それは生活以外に富はない」であると云ったが、しかしわれわれはこれに一つの事をつけ加えたい。時間が生活の根本であり、われわれを速やかに永遠に招き入れるものである、と。

「福音を恥としない」



田川幸子

私は、神は實在され、その御子イエス・キリストは確かに全人類の贖い主であるという証詞を持つことができたことを本当に感謝している。

私は神の存在を信じていなかった。ただ神というものを信じている面白い人々も、世の中にはいるものだと考えていた。ところが、始めて宣教師から神について聞いたとき、私は簡単にそれを受け入れた。反対する理由がなかったからである。それとともに、神が確かに存在するということをもっと私自身に確信づけてくれる、証明となるなにかを求めて聖書を読んだとき、私はそこに人智ではとうていおよばないものを発見した。もし神が存在していないとしたら、だれがそのような素晴らしい確信にみ

ちた約束のことばを全人類に向って公言することができ得るであろうか。

またあらゆる面から追及しても壊すことのできないような完全性を備えた計画を、だれがつくることができるだろうか。神は實在され、そのことばと約束とを全人類に与えられたと考えるよりほかに説明のしようがない。聖書は神を証詞するものであることを知り、のちにモルモン經を読むことによってこれがいつそう私の心に強くなっていって、これが私の持つことのできた最初の証詞である。

私はもっと神についての知識を得たいと思った。福音を受け入れるということ、すなわち信仰を持つためにはまず知識が必要であると思う。もちろん信仰の強さは知識の量に必ずしも比例はしないが、よく多くの知識を得

ればより強い信仰を持つ助けになるということはいえる。私はいくらかの福音にかんする知識と、理論的に正しいから信ずるということによってバプテスマを受けた。幸い私は伝道本部で、伝道部長はじめ素晴らしい方々の祝福の見守りの中で、尊敬する長老からバプテスマを受けることができた。そしてそのとき、私は始めて経験による証詞を得た。私はまったく言いしれない神の祝福とみたまの導きを全身に感ずることができた。これが私自身が経験し、神は確かに實在している」と私の口からいえる最初の証詞である。

そこから私の信仰生活が始まった。集会に参加し、また神のみことばを読むことによって進歩のための沢山の誠命を知った。実践が伴わなければ信仰はなんの意味もないということがいわれるが、私はなぜ主が福音の実践について忠告されているか、その理由がわかった。すべて自分の意思どおり行動することのできない自身に気づき、さらにたえず努力して、兄弟姉妹のお話や聖典を通して誠命を反復し、いつも心に留めることによってのみ進歩するより方法がないことを知ったのである。

マッケイ大管長は救われるためにはいかに

努力が必要であるかによって少年たちが水泳ぎしているうち一人がおぼれた。つれの少年たちは彼を助けることができなかった。幸いほかの人が長いサオを出したので、少年はこれにしっかりとつかまって生命が助かった。しかしどんな救助の手段があつても、あの少年が助かりたいという気持ちがなかつたならおぼれてしまったであらう」というお話をし、キリストが人間を救うため万全の用意をし、いつでも手をさしのべて助けようとしているにもかかわらず、人間がなんの努力もしようとしないならば救われることはできないと強調している。確かに自らの行為こそが私たち自身の信仰を表わし、自己を救いに与らせることができるか否かをきめるものにほかならない。

「世に克つ勝利は我らの信仰なり」私は大きな喜びと希望をもって神に仕えることを決心した。教会内で責任を与えられ義の道を歩もうとするときに多くの困難にあつたが、それによつて私は多くのことを学び祈る喜びを知った。そして私は、祈ることについては驚くべき二つのことを知った。それはたとえ私の力が私のなそうとしている

ことに対して不足しているように思われるときでも、心から神の助けを信頼して求めるときに力が与えられるということ、そしてあまりに自分の力を過信して神を忘れるときは、かえつて自分の力が不十分なことを思いしらされるということである。このとき強く神の力を感じ、私は一番尊い証詞を得、神の存在に対する強い確信とその愛に対する信頼を持つことができたのである。成長のためには困難が必要であり、それを克服することによりどんなに強くなるかを知った。そして知識よりも実践が必要であるように、自分の知識、才能よりも喜んで行なおうとする積極的な意思が大切であると感じた。これは衆人に福音を伝える責任を果たすときにも必要だと思ふ。福音に対する確信を持ち積極的な意思があるときには目的にかんして必要な準備をし、そのために勤勉に努力するので心から祈りでき、神への信頼にみちたとき神は必要な助けを与えて下さるのである。そのときこそ神とともにあることを感じ、真に「私は福音を恥としない」といえるのである。(五五年八月二日、仙台支部日曜学校大会での話から要約)

系 図

今後教会々員で死亡者ある場合その家族の記録及び系図を神殿の儀式執行の爲提出せねばならないので各支部系図委員会のお骨折りを願ひします。

個人の家系に関することは機密に亘ることが多くあるので之を取扱い管理する系図委員は特にこの点に注意し家族の人を傷つけることないように、又本人と雖も先祖の名を傷つけるようなそして必要でないことを集会等で語ることないように謹まれたい。

九月中の系図のプログラムは系図委員会の活潑な各支部に於て実施されているようです。二番目の語り手の家族組織はまだ日本に実在しないのとワルゼン姉妹の探求要覧にもハンドブックから取入れなかった為、演説者も苦勞され又要領を得なかった人もあつたと思いますが本部の方で不準備だつたことをお詫びし今後そのようなことないように注意致します。

(渡部)

若き末日聖徒の為の

モルモン経物語 (二四)

エマ・マー・ピーターソン 著
渡部 正雄 訳

彼は子供達を祝福する

ニーフアイ第三書、第十七章

イエスは彼の周りに集って偉大な教えに聞き入る人々を見つめました。イエスは彼等の内の多くの者が深い感銘を受けてゐるのを見てとりましたが彼等はイエスの言ふた事すべてを理解する事は出来ませんでした。イエスは言いました。「汝らは理解力弱く御父が今汝らに説き伝えよとわれに命じたまいし教えが、ことごとく汝らに了解されざること明らかなり。されば汝らは各々その住居に歸りて後、われがこれまで汝らに語りしことをよくよく考へて汝らの理解できるように、また明日教えを聞く準備をするため

に、わが名によりて御父に祈るべし。われは明日再び汝らのところに来らん。今われは御父のもとに上り、また失われて行方の知れざるイスラエルの支族のところへ行きてわが身をかれらにも現わさざるべからず。その支族は御父がこれを導きたまいし故に、その居るところをよく知りたもう。故に御父には行方不明にあらざるなり」と、

イエスが見ると彼等はその眼に涙さえ浮かべて彼が彼等と共に居ることを望んでゐるようでありました。イエスのみたまはあわれみに充たされ彼等を祝福しようとして言いました。

「汝らの中にて今病める者あるか。その者たちをここに連れ来れ。汝らの中にて足なえ、めくら、びっこ、かた

わ、らい病人、なえたる者、つんぼ、またはいかなる病にてもあれ悩める者は、その者たちをここに連れ来れ。われは汝らを憐み、汝らに対する慈悲の心にて溢るゝばかりなれば、これらの者を医さんとす。」

イエスは彼等が彼がイエルサレムに於てなしたと同様の祝福を望んでゐることを見てとりました。そして彼等の信仰が彼がその病を癒すに足るだけのものである事をも知りました。

人々は直ちに病める者盲人足なえその他すべて悩める者を連れて来ましたが彼はこれ等すべての人を癒しました。

そこで癒された者は皆跪いてイエスを礼拝しました。彼等の親戚や友人達は彼等と一緒に喜びに泣きながら彼の足に口づけしました。彼等はその涙を以て彼の足を洗いました。

イエスは今度は彼等の子供達を祝福しようと思ひ彼等に彼の許に連れて来るように命じました。子供を持つてゐる者達は皆連れて来て彼の周囲の地に坐りました。

そこでイエスは彼等の間に立上がり両親達に彼及び子供達の周囲の地に跪くように命じました。

イエス自身も地上に跪き天父に祈り群衆は皆彼の言葉を聞きました。イエスの言つた事は記す事が出来ない程神聖なものでした。けれどもそれを聞いた人々は言いました。

「私たちが見たり聞いたりしたイエスの御父に対するお祈

りは、人の目がまだ見ず、耳がまだ聞かないほど偉大で驚嘆すべきものである。これを口で言いあらわせる者もなく、筆で書きあらわせる者もなく、また人間の心で想像できぬほど偉大で驚嘆すべきものである。イエスが私たちのために御父に祈つて居りたもうのを聞いたとき私たちの心に満ちた喜びは人間の想像ができないものである」と

イエスは祈りを終えると立上つて群衆にも立上がるように言いました。そして「汝らは其の信仰の故にさいわいなり。見よ、今わが喜びは満ち溢れたり」と

彼等の大いなる信仰の故に彼も又喜びに泣きすべての人はそれを見ました。

それからイエスは彼等の小さな子供達を一人づゝ祝福して天父に祈りました。そしてそれを終えるとイエスは再び群衆の前に泣きました。

イエスは群衆に「汝らの子供たちを見よ」というと群衆は之を見ようと顔を上げて天を見た時天は開けて天使等が火の中に取巻かれたような様子で天降つて来てイエスが祝福した子供達を取囲みました。火も又天使と共に来て子供達を取巻きましたがそれは天の火でありましたので誰も燃えませんでした。天使達はそこで小供達に恵みを与えました。すべての親達はそれを見、主なる神様の祝福をほめ讃えました。

聖餐式が与えられた

ニーフアイ第三書、第十八章

人々と共に在る間にイエスは天父の許に昇って行く前にもう一つの事をなしたいと思ひました。それは主の晩餐の儀式をニーフアイ人達に与えることでした。

イエスは十二人の弟子達を呼んでパンと葡萄液とを持ってくるように命じました。パレスティンに於けるユダヤ人達と同様ニーフアイ人達は葡萄汁を天然の儘飲みそれを葡萄酒と呼んで居りました。

弟子達がパンと葡萄液を求めに行つてゐる間に救主は群衆に地上に坐するように命じました。直ぐ弟子達は食物を持つて来ました。イエスはパンを取つてさいて祝福しました。彼は最初十二人の弟子だけに食べよと言つて与え彼等が食べて後すべての人が食べれるように群衆に渡すようにと告げました。すべての人がいたゞいた後イエスは言ひました。「汝等の中一人選まれて按手札により聖任さる。我は其一人にパンをさきこれを祝して我が教会の会員即ち信じて我名に由てバプテスマを受けた總の者たちにこれを与えしめんために相当の権能を彼に授けん。今我はパンをさきこれを祝して汝らに与えたるが汝らも常にかくのごとくこの儀式を行わざるべからず。これを我が汝等に現わしたる我が体の記念に行え。さらば汝らはこの儀式によりてた

えず我を記念するという証明を御父になすを得ん。もし汝らがたえず我を記念せばわが「みたま」必ず汝らと共に在らん」と

こう言うた後、イエスは弟子達に彼が祝福した葡萄液を飲み群衆に渡すように命じました。皆の者がいたゞいた後主は言ひました。「汝等は今為した事の為にさいわいなりかくするは我が命令を守ることにして、此の儀式によりて汝等は、我が汝らに命じたることを喜んで行ふと言ふことも御父に証明するなり。この儀式は悔い改めて我が名によりてバプテスマを受けたる一切の者たちに汝らが常に授くるものにして又我が汝らの為に流したる我が血の記念に行ふべきものなり。而してこれによりて汝らは汝らがたえずわれを記念すと言ふことを御父に証明するなり。若し我をたえず記念せばわが「みたま」必ず汝らと共に在らん。」と、

イエスは彼等にこれ等をなす者は我が岩の上に建てる者であり、又なさない者は我が岩の上に建てるに非ず砂の上に基を置く者であるから雨降り洪水が出て又風が吹いて彼等に當つたならば彼等は倒れるであらう。而して地獄の門は斯る者共を引入れる為已に開かれてあると述べました、更に彼等は言葉を續けて、

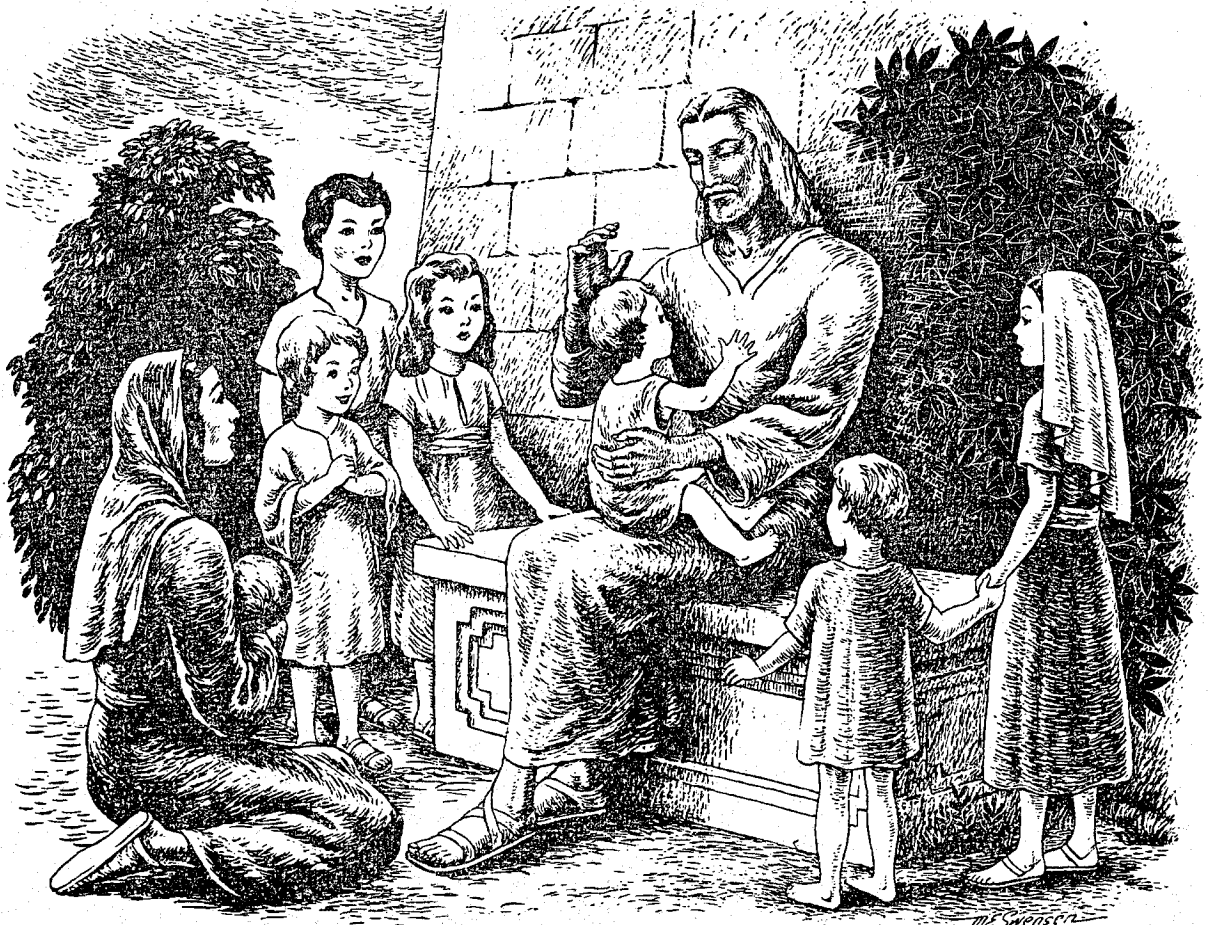
「汝等は我が命じたることを守らばさいわいなり。わが命じたることはすなわち御父が我に汝らに伝えよと言いた

まえることなり」と

救主は再び人々に祈るように教えました。イエスは彼等に己に主の祈りを教えイエスの名によって天父に祈るように告げました。今彼はどうして祈らねばならぬかを伝えようとして先づ最初に弟子達にだけ語りました。

「我まことにまことに汝らに告ぐ。汝らは悪魔に誘いまどわされてそのとりことならぬようたえず目を覚まして祈らざるべからず。われが汝らの中に在りて祈りし如く汝らもまた悔い改めてわが名によりてバプテスマを受けたるわが民すなわちわが教会の会員の中に在りて祈れ。見よ。われは光なり。われは汝らのためにすでに模範を示しぬ」と

イエスは以上の事をその弟子達に告げて後、又群衆に向つて同様に、祈りは罪を防ぐ道であると告げて、「我まことにまことに汝らに告ぐ汝らは誘惑に負けざるよう絶えず目を覚まして祈らざるべからず。そはサタンが汝らを支配して麦のごとくにふるわんと欲すればなり。されば汝らは我君によりてたえず御父に祈らざるべからず。而して汝らが必ず受けんと信じて、我名によりて御父に乞ひ求むるものは其の正当なるものなる限りすべて汝等に与へらるべし」と言いました。



キリスト子供たちを祝福する

イエスは家族の祈りは非常に大切であることを知って居り、ニーファイ人達に対してすべての家族の者達が誘惑に対して強くなるように家族全部で共に祈りなさいと教えしました。そこで彼は「汝等の妻子が祝福を受けるよう、たえず我名によりて家族の祈りを御父に捧げよ」と言いました。

イエスは又ニーファイ人達に対し集会によく出席して求道者達が改宗するようによく歓迎すべきであると教えて、「汝らたびたび集会をせよ。集会をする時には、何人にも会に出席することを禁ぜずして集りに来ることを許し、その者たちのために祈りて、決してこれを追い出すべからず。その者たちにたびたび汝らの集りに来りなば、汝らはこれがためわが名によりて御父に祈るべきなりと言いました。

イエスは、彼等に彼は世の光であるから教会の会員達もその光を他の人の前に掲ぐべきであると告げました。

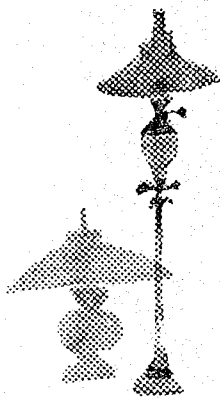
人々に対し集会に来る訪問者を歓迎するようにと教えて後彼は再び十二弟子に向って聖餐式の神聖さを強調しました。彼は彼等に主の務めをなす者として如何なる人と雖も主の聖餐を戴く資格ない者に与えてはならないと告げました。彼は彼等が悔改めない者達の為に祈るべきである。そして正しい事を行うように励ましてやるべきである。けれども悪人に聖餐を取らしてはならないと告げました。只悔改めて進んで主に仕えようとする者だけが取ることを許さ

れると教えしました。

再び彼はその教義に就て論争してはならないと告げて「汝等若し今後再び論争なさざればさいわいなり」と言いました。

遂にイエスは彼等に天父の許に帰る時が来た事を告げました。彼は十二弟子の処に来て一人々々の上に手を置いて何事かを語りましたが群衆達には聞えませんでした。けれども弟子達は彼等に主が聖霊の賜を与える力を自分達に与えたのだと告げました。

彼が十二弟子達に此の力を与えて後雲が降りて来て群衆を覆い群衆は彼を見ることが出来なくなっていました。彼等が此の雲に覆はれてゐる間に救主は昇天して行きました。群衆は彼の昇天を見ることが出来ませんでした。十二弟子は見てすべての人々にその証詞をしました。



伝道本部だよ

新宣教師到着

ポール・D・スカウン長老(ユタ州リーハイ)とロバート・K・パーキンスン長老(アイダホ州)は八月二十二日来朝

マールン・K・アカヒ長老(ハワイ・ホノルル)とレイモンド・Y・ササキ長老(ハワイ・ホノルル)は八月二十八日来朝

宣教師異動

マールン・K・マカヒ長老

レイモンド・Y・ササキ長老

リヤ・メイ・エベレット姉妹

トーマス・E・マース長老

ジェリー・ステイル長老

ポール・D・スカウン長老

ロバート・K・パーキンスン長老

ガース・リイシイマン長老

群馬支部長

任命

バプテスマ

藤村 猛次 小川 良夫 准田 忠勝 平木 桂子 大木 春美 榎本 詔子 長田 幸子 武井 陽子 今井 俊丸 伊藤 秀子 山崎 秀子 石崎 セツ子 川口 喜子 析田 幾子 仁村 武志 佐藤 治伸 御子 柴真吉 熊野 照夫 竹田 潤子 大町 洋子

阿倍野 廣島 甲府 松本 名古屋 名古屋 岡町 岡山 札幌

篠原 寿美子 菅野 道子 大久保 日出夫 辻山 絹枝 原靖之 堀池 義英 金子 雅俊 成田 富士夫 喜井 シゲ 櫛沼 美智子 水沼 明美 三宅 笑子 更科 ため子 三浦 トミ子 岩崎 和夫 丸山 清子 平安 名ヨシ子 奥間 政栄 平良 キク子 下地 正二 新地 清三 他に韓国に十四名のバプテスマがありました。

神権

◎執事

川田 輝夫 児玉 栄治 松岡 まる 松岡 一夫

金沢 松本 新宮

◎教師

◎祭司

逝去する。

韓国地方部長金浩植兄弟

溝上 長男 江方 次男 渡部 正和 近藤 正夫 川田 正夫 長峯 ケンセイ 屋富 祖明 矢吹 富夫 新保 勇夫 板倉 秀樹 近藤 治男 中村 利雄 佐藤 公彦 杉本 克巳 津端 了治 当真 徳任 横田 光順 他に韓国に執事三名祭司一名の聖任があった。

八月二十九日、金兄弟は会議中卒倒、意識不明のまま三十一日逝去された。同兄弟は韓国教育界の重鎮であり、栄養学の世界的権威者であった。

◆◆読者交歓室◆◆

ソルト・レーク市

日本人支部の活動

日本に居られる教会の皆様は日本の裏側の国でも日本語で讃美歌を歌い、日本語でクラスを教え、また日本人主催のピクニックもやっていることをお知らせいたします。

この国はアメリカ合衆国と言ってシオンと言うロッキー山脈の上にあつて神様に塩で清められたと思われる様なソルト・レーク市の中心街のすぐ近くにあります。

毎日曜日に集まる人たちは日本からの帰還宣教師、日本人一世、二世、米人で七十人から八十人ぐらいです。日本人支部の組織はハワイで伝道されたカール・ランバート長老が支部長、その下に第一

副支部長は小田原からこられたトム・鈴木兄弟(B・Y・Uでバプテスマを受けられた)そして第二副支部長は私、すなわち田中照雄です。日曜学校はオデコの広いシヤム長老が会長、第一副会長はボーエン長老、第二副会長はジョセフ・西本兄弟。先生は日本の皆様の御存知のノーマン・シヤムウエイ長老それからハイス長老夫人とその他の方たちです。本当に日本で教会に出席している様な感じ

です。M・I・Aは最近日本から帰られたヒルス長老が一生懸命にやっております。

八月一日には日本支部のピクニックを昔のモルモンの開拓者がこのソルト・レーク市に入つて来た山の上のイースト・キヤニオンと云う白樺の生え繁る静かな森で

日の暮れるまでバドミントン、バレーボール、ソフトボール等をやつておなかを空かしました。名古屋の姉妹と結婚されたスエンスン長老家族はやさしい両親と元気な四、五人の子供たちと全部でソフト・ボールをやつていましたが、それをみていると本当にほゝえましい感じがしました。

夜になつて近くから木を切つて来て作つた大きな火を囲んで楽しい一時を過しました。皆で「みかんの花咲く丘」とか「荒城の月」をシヤム長老の指揮の下に昔の開拓者にもきこえんばかりに歌いま

した。たぶん、昔の開拓者はアメリカにミカンの木があつたかな? とたまげているでしょう。ブリガム・ヤング大学からはハワイアン・クラブの人たちもこれウクレレやギター等と一緒にハワイの美しいコーラスも聞かせてくれました。最後にシヤムウエイ長老が口

紅をつけ女のドレスを着て、ヒルス長老の恋人になり、私が悪役になるという大変なスキットをやつて皆さんで大笑いしました。

日本と同じ様にオニギリにチキン・フライのおいしい食事のあと、デザートとして大きな水瓜でおながだぶ／＼になる程いただきました。もちろんそれだけ沢山戴くのはアメリカでも特別な男性ばかりですが。

求道者の一人でアメリカに何十年もいる独身の木戸さんという気のよさそうなおぢいさんは一人言の様に私に「この教会は皆が楽しく、実際に親切で教会の教えを実行している」と云うのを聞き、あゝ本当にいゝピクニックだったなあゝと思いました。

帰りは日本と少し違い各人が車に分乗して山を下りて行きました。

(ユタ州ソルト・レーク市にて)

田中照雄

写真の説明を乞う

—九月号一頁の福祉農場—

九月号の一頁、目次の上段にある写真は、カシャー・ステーキ部の福祉農場の写真のようですが、どのくらいスケールで、写真にみえるトラクターはなにをしていますか。くわしい説明をして下さい。
(東京中央・山田義郎)

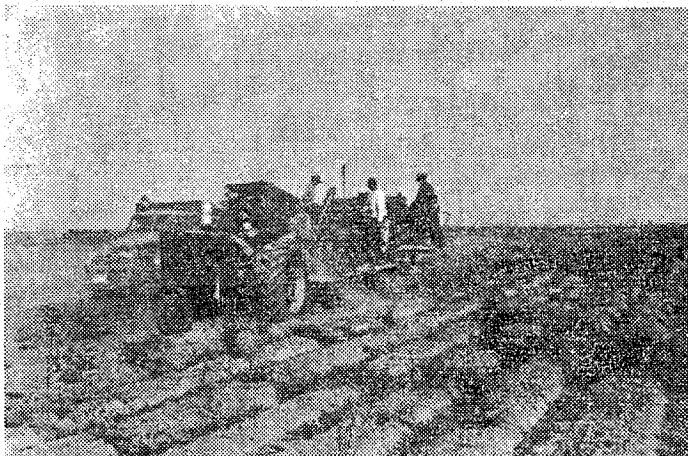
“写真の説明を乞う”

に答える

アイダホ州のカシャー・ステーキ部、すなわち東京北支部伝道中のジョン・アダムス長老の所属するステーキ部の福祉農場です。

五つのワード部で所有するこの農場は、二六三エーカー(約二町七反)の広さで、五〇エーカーにジャガイモ、同じく五〇エーカーに砂糖大根、のこりの一六三エー

カーに麦が作付けされています。写真に見るところはジャガイモの収穫です。手前のトラクターですくいあげ、後方のトラクターに自動的につみこまれて行きます。こ



のトラクターは会員から借用されるもので、ステーキ部では所有していません。

この地方は乾燥地帯なので二台

の大きな井戸ポンプにより灌漑され、一人の管理人がこの為に専属に有給で働いています。この管理人のみ有給で他はすべてワード部神権者たちの労力奉仕にゆだねられています。

この土地は七万五千ドル(二千六百九十万円)で購入されたが、その購入費は一年で大監督会に全額返済したとの事です。ステーキ部内の会員の犠牲的精神に我々は大いに学ばれます。

福祉計画は一九三六年ヒーパー・J・グラント大管長の指導のもとに始められ、今日にいたるまで大発展をとげた計画です。この計画の目的はおよそ次の四つであると思います。

(一) 各会員に自分自身とその家族の世話を一層よくみるように教

え、また助けることによつて教会員各自が独立心と独立独行の精神を伸すようにすること。

(二) 困窮者のために人々が共同して働くように教え、兄弟愛と協力の精神とを伸すようにすること。

(三) 貧困者や難儀をしている人々のための生活必需品の生産。

(四) 教会員個人または全教会に起るかも知れない緊急の事態に対処することが出来るよう有能な組織すなわち、よく機能を發揮し活動できる教会組織をつくり維持すること。

アメリカの一つのステーキ部でこれ程の農場をもっているわけで、教会全体の福祉計画のスケールの大きさが想像されます。

(編集部)

◆◆読者交歓室◆◆

編集後記

毎月の編集会議ではなかなか活潑な意見が発表されて「聖徒の道」が一層発展するための努力が行われています。しかし、何と言っても読者各位の希望や助言が最も建設に役立つものでありますから、隅から隅まで御覧の上編集者へ良い助言をお寄せ下さい。

(佐藤 竜)

* *

読書の秋です。こぞって聖徒の道を読んで豊かな霊の糧を得ると共に他の人々にもその糧を頒ち与えよう。

(渡辺)

* *

今年の十月でモルモン経の日本語訳が出版されてから五十周年に当たります。新訳も既に三版を重ねました。モルモン経は良かれ、悪しかれ、世の評を得ておりますが、モルモン経がベスト・セラーになるのも間近いことでしょう。

今年の四月から聖徒の道の編集者の一人であったガース・ノーマン長老は九月の三十一日で解任、今月号の裏表紙に載っているP A Aのジェット・クリッパーで帰国されます。在任中は聖徒の道の改善のため並々ならぬ努力をされ、A 5判活版刷りにまでにこぎつけたのは彼に負う所大であります。心から感謝をします。読者諸氏の御健康を祈ります。

(佐藤 汎)

* *

聖徒の道の一部売りを積極的に各支部に働きかけてもらうため、ミッシヨナリー・メツセンジャーの誌面を通じ各支部長によびかけました。このことは単なる雑誌販売に終らず、伝道の一助になる点を強調しました。

未知なる人との接触に、教会について話しをするときの視覚教材に聖徒の道を使って下さい。会員一人が月に五冊位売れる事は、すくなくとも二十人ぐらいの人に伝

道する事になるでしょう。

そうして知り合った人を宣教師に紹介して下さい。

「すべての会員は宣教師」という運動を今月号より起しました。英国で成功しているこの運動が当伝道部でもその成果を上げるよう期待しています。

(大塚)

× ×

× ×

× ×



10月号表紙一新たに副管長に召されたヘンリー・D・モイル

月刊「聖徒の道」第三巻第十号

一九五九年十月一日発行

実価 一ケ年 三百円

一部 三十円

編集兼
発行人

ポール・C・アンドラス

発行所

東京都港区麻布広尾町十四

末日聖徒イエス・キリスト教会

北部 極東伝道部

すべての会員は宣教師

——友人を宣教師に紹介し、家庭集会を開いてもらおう——

「……されば、その警めを受けしことあるすべての人はその隣人を警むる責任あり。故に人々云逃れあることなし。罪は人々自らの頭の上にあり。」

私たちには親戚や友人や知人が沢山いる。この人たちに福音を聞く機会を与えなければならぬ。福音こそはまことの富であり、天父の与え給う最大の賜である。

「聖徒の道」は福音を伝える糸口と視覚教材としての価値がある。しかし深く教えを学びたい者は、宣教師に紹介して家庭集会を開いていただく事が最も好ましい。遠方にいる知人たちには、住所と名前を宣教師に送って訪問していただく事も出来る。

北部カリフォルニア伝道部では会員により紹介された人々の四十パーセントが改宗し、英国では改宗者の六十八パーセントは会員の紹介か、もしくははみちびきを受けた人たちであったと報告されている。

マッケイ大管長も今年四月の大会ですべての会員は宣教師であることを強調され、自分の親戚や、友人を教会にみちびく為に働くよう要請されている。

聖地

地 聖 市

末日聖徒イエス・キリスト教会

支 部 管 理 長 宅 殿

住 所
氏 名

郵便はがき

ここへ5円
切手をお貼
りください

私たち北部極東伝道部でもこの運動を活潑にするよう、宣教師はこの方法についてすでにくわしく知らされている。宣教師たちは私たちが友人たちの住所と名前の書かれてあるハガキを出すのを首を長くして待っている。

英国に於けるこの運動のキャチ・フレーズは

「もし私がやらないならば、誰がするであろうか」

「もし今やらないならば、いつすることが出来るだろうか」

ということである。隣人に福音を頒ち与えましょう。「誰か」でなく「貴方」がそれを実行して下さい。「いつか」ではなく「今」すぐそれを始めましょう。各地の宣教師たちの住所は左記の通りです。

支部所在地

阿倍野	大阪市東住吉区田辺東町 7ノ2
旭川	旭川市八条5丁目
福岡	福岡市薬院大通 2ノ55
群馬	高崎市並榎町 275
広島	広島市古田町古江 400ノ3
金沢	金沢市成瀬町 11ノ4 野田方
甲府	甲府市富士見町 1
松本	松本市沢村 1604
室蘭	室蘭市幸町 89
名古屋	名古屋市昭和区北山町 3ノ41
新潟	新潟市中大畑町 557 金井方
西宮	兵庫県西ノ宮市田代町 111
岡町	大阪府豊中市岡町北 2ノ18
岡山	岡山市国富 1ノ119 丹下方
小樽	小樽市富岡町 1ノ35
三宮	神戸市灘区篠原本町 4ノ35
札幌	札幌市北二条西24丁目
仙台	仙台市光禅寺通り 28
東京中央	東京都渋谷区八幡通 1ノ34
東京北	東京都豊島区椎名町 4ノ2068
東京南	東京都大田区南千束町 249
東京西	東京都武蔵野市吉祥寺 368
山形	山形市諏訪町 397
柳井	山口県柳井市今市 391
横浜	横浜市港北区篠原町 29
普天間	沖縄宜野湾村野嵩区 328
那覇	沖縄那覇市松尾区 139

田

岡

川

山

市

氏

名

住

所

内 案 書 図

教義と聖約	高価なる真珠	モルモン経	教義と聖約	高価なる真珠	モルモン経 (新訳)	モルモンとは	完成への道	初等協会教科書	総合聖句の手引	日本系図探究要覧	聖典中の指導者	家督権の祝福	扶助協会手引
合本	合本												
.....													
一一〇〇円	三〇〇円	二〇〇円	一〇〇円	二〇〇円	二〇〇円	一五〇円	一五〇円	一五〇円	一〇〇円	一五〇円	一〇〇円	一〇〇円	五〇円

日曜学校用

福音と生活	古代アメリカの生活	旧約聖書物語
.....		
一〇〇円	一〇〇円	一五〇円

M I A 用

役員と指導書の手引	我らは奉仕する	Mメン・グリーナーの手引	演劇指導者基礎知識と脚本集	演説が上手になる法	社交ダンス必携	新しいフォークダンス
.....						
一〇〇円	一〇〇円	一〇〇円	七五円	一五〇円	一六〇円	五〇円

讃美歌及び歌集

末日聖徒讃美歌	末日聖徒讃美歌拔萃	子等は歌う	レクリエーション歌集
.....			
三〇〇円	三〇〇円	一〇〇円	四〇〇円

..... 註文は各支部長へ

*合衆国特許局登録商標